

問題三 次の文章は『和泉式部日記』の一節で、帥の宮（敦道親王）が女（和泉式部）を自邸に迎え入れようと決意する場面から始まる。全体を読んで、あとの問いに答えよ。

いかにおぼさるるにかあらむ、心細きことをのたまはせて、「なほ世の中に a ありはつまじきにや」とあれば、

呉竹の世々のふるごと思ほゆる昔がたりはわれのみやせむ
と聞こえたれば、
S

呉竹の憂きふししげき世の中にあらじとぞ思ふしはばかりも

などのたまはせて、人知れず b 据ゑさせたまふべき所などおきて、「I 慣らはである所なれば、はしたなく思ふめり。ここにも聞きにいくぞ言はむ。ただわれ行きてゐていなむ」とおぼして、十二月十八日、月いとよきほどなるに、おはしましたり。

例の、「いざたまへ」とのたまはすれば、今宵ばかりにこそあれと思ひてひとり乗れば、「人ゐておはせ。さりぬべくは c 心のどかに聞こえむ」とのたまへば、「例はかくものたまはぬものを、II もしやがてとおほすにや」と思ひて、人ひとりゐて行く。

例の所にはあらで、忍びて人などもゐよと d せられたり。さればよと思ひて、「なにかはわざとだちても参ら A まし。いつ参りしぞとなかなか人も e 思へかし」など思ひて、明け B ぬれば、(注1) くしの筥など取りにやる。

宮人 い させたまふとて、III しばしこなたの格子は上げず。おそろしとはあらねどむつかしければ、「今かの北の方に渡したてまつらむ。ここには近ければゆかしげなし」とのたまはすれば、おろしこめて A みそかに聞けば、「昼は人々、院の殿上人など参りあつまりて、いかにぞかくてはありぬべしや。(注2) 近劣り

いかにせむと思ふこそ苦しけれ」とのたまはすれば、IV 「それをなむ思ひたまふる」と聞こえさすれば、笑はせたまひて、「まめやかには、夜などあなたにあ C らむ折は用意したまへ。けしからぬものなどはのぞきもぞ X。今しばしあらば、かの宣旨のある方にもおはしておはせ。おほろけにてあなたは人

もより来ず。そこにも」などのたまはせて、二日ばかりありて北の対にわたらせたまふべければ、人々おどろきて上に聞こゆれば、「V かかることなくてだにあやしかりつるを。なに イ かたき人にもあらず。かく」とのたまはせて、「わざとおぼせばこそ忍びてゐておはしたらめ」とおぼすに、ウ 心づきなくて、例よりもものむつかしげにおぼしておはすれば、いとほしくて、しばしは内に入らせたまはで、人の言ふことも聞きにくし、人の気色もいとほしうて、こなたにおはします。

「しかじかのことあ D なるは、などかのたまはせぬ。制しきこゆべきにもあらず。いとかう、身の人げなく人笑はれに恥づかしかるべきこと」と泣く泣く聞こえたまへば、「人使はむからに、御おぼえのなかるべきことかは。(注3) 御気色あしきにしたがひて、中将などがにくげに思ひたるむつかしきに、かしら 頭などもけづらせむとてよびたる E なり。こなたなどにも召し使はせたまへかし」など聞こえたまへば、いと心づきなく T おぼせど、もののたまはず。

（『和泉式部日記』）

(注) 1 くしの簞……化粧道具の入った箱。

2 近寄り……近くに寄って見ると、劣って見えること。

3 宣旨……宮付きの女房の呼名。

4 上……北の方。帥の宮の正妻。

5 中将……北の方付きの女房の呼名。

問一 二重傍線部 a 「ありはつ」・ b 「据ゑ」・ c 「心のどかに」・ d 「せ」・ e 「思へ」はいずれも活用語である。それぞれの活用形として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。同じ選択肢を繰り返し選んでもよい。

a 20 b 21 c 22 d 23 e 24

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 終止形 ④ 連体形 ⑤ 已然形 ⑥ 命令形

問二 二重傍線部 A 「まし」・ B 「ぬれ」・ C 「ら」・ D 「なる」・ E 「なり」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。同じ選択肢を繰り返し選んでもよい。

A 25 B 26 C 27 D 28 E 29

- ① 完了の助動詞 ② 希望の助動詞 ③ 打消の助動詞 ④ 比況の助動詞 ⑤ 断定の助動詞

- ⑥ 丁寧の助動詞 ⑦ 伝聞・推定の助動詞 ⑧ 反実仮定の助動詞 ⑨ 動詞の一部 ⑩ 助動詞の一部

問三 波線部 A 「みそかに」・イ「かたき人」・ウ「心づきなくて」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

A みそかに 30

- ① 落ち着いて ② こっそりと ③ すぐさま

- ④ 真夜中に ⑤ よそよそしい態度で

イ かたき人 31

- ① 得がたい人 ② 機転が利く人 ③ 融通が利かない人

- ④ 恋敵になる人 ⑤ 他言しない人

ウ 心づきなくて 32

- ① 恐れ多くて ② いとおしくて ③ 嫌な気がして

- ④ 情けなくて ⑤ 反省して

問四 二重傍線部S「聞こえたれば」・T「おぼせど」の主語として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。ただし、一つの選択肢は一度しか選べない。

S 33 T 34

- ① 女 ② 女の侍女 ③ 北の方 ④ 宮 ⑤ 宮邸の人々

問五 空欄Xに入ることばとして最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

35

- ① す ② しき ③ する ④ すれ ⑤ せめ

問六 傍線部I「慣らはある所なれば、はしたなく思ふめり」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

36

- ① 想像と違う所だったので、不満を感じているようだ、ということ
② 慣れない場所なので、きまり悪く思っているようだ、ということ
③ 先に場所を伝えておかなければ、落ち着かないだろう、ということ
④ いつもと同じような所だったら、気まずく思うだろう、ということ
⑤ 代わり映えない部屋だと、飽きてしまうかもしれない、ということ

問七 傍線部II「もしやがて」のあとには、どのようなことばが続くと考えられるか。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

37

- ① いかにせむ ② 頭などもげづらせむ ③ 世の中にあらじ ④ わざとだちて参らむ ⑤ ゐていなむ

問八 傍線部III「しばしこなたの格子は上げず」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

38

- ① 女の部屋に入ろうとした宮に対して、体調の優れなかった女が今日は会えないという意思を示そうとしたため
② 女は宮の人柄を恐ろしいと感じることはなかったものの、二人の身分差を考えると恐れ多いと思っていたため
③ 女には、宮が自分の部屋にいるところを、邸内を出入りする者に見られるのが、面倒くさいと感じられたため
④ 宮に無理に連れてこられた女にとって、宮邸内にあてがわれた狭い部屋は到底納得できないものであったため
⑤ 宮は、周囲が女の宮邸入りに難色を示すことを恐れ、北の方を説得できるまで少し様子を見ようと考えたため

問九 傍線部Ⅳ「それをなむ思ひたまふる」と聞こえさすれば、笑はせたまひて」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

39

- ① 女が知りえないはずの宮邸内の内部事情を交えながら悩みを打ち明ける宮に対し、あたかもすべてを見通していたかのように相づちを打つ女の勘の良さに宮が感心した、ということ
- ② 女の部屋を北の対屋に移せば周囲の目も気にならないだろうという宮の提案に対し、女が異を唱えなかったので、問題解決の目処^{めど}がついた宮から安堵^どの笑みがこぼれた、ということ
- ③ 女への気遣いから宮が冗談交じりに述べた宮廷生活での心配事に対し、真に受けた女がすぐさま同感の意を表したので、その率直さに宮が思わず笑ってしまった、ということ
- ④ 北の方をはじめとする宮邸内における人間関係への不安を口にする女に対し、万事手を尽くしていることを伝えた宮が女を安心させ、緊迫した雰囲気が和らいだ、ということ
- ⑤ 宮の胸中を察して他の殿上人よりも優れていると励ました女のことばに対し、宮がそれを自認しているかのような発言をしたので、頼もしく感じた女が笑顔で返した、ということ

問十 傍線部Ⅴ「かかること」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

40

- ① 宮が不仲であるはずの北の方に会いに来たこと
- ② 宮が女を北の対に住ませようとしていること
- ③ 北の方の許可を得ないまま宮に恋人が出来ていたこと
- ④ 女と恋仲になった宮が北の方の部屋に来なくなったこと
- ⑤ 殿上人達がいるところへ突然宮が女と一緒に現れたこと